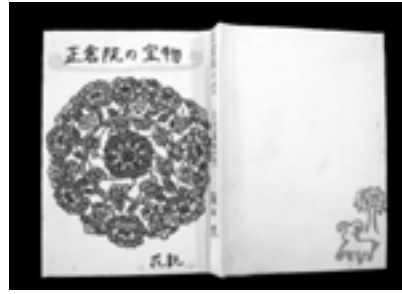


『正倉院ミニ絵本』(本紙)



『正倉院ミニ絵本』(表紙)

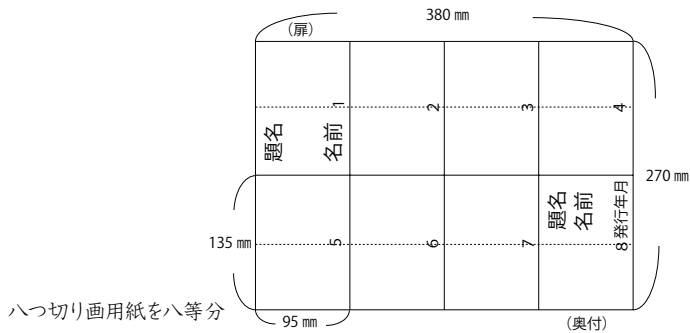
八・ミニ絵本を作る

わたしがミニ絵本を作ることになったのは、正倉院展の宝物を見たのがきっかけです。千数百年も前に作られたものがすぐ傍で見ることができた感動を残したいと思いました。奈良時代に毛筆と墨で描いた文字と絵が今ものこっているのです。

そこで、わたしも墨と筆で正倉院の宝物のかたちを描き、赤、黄、青の三色を混ぜて色を塗りました。掌にのる小さい本ですが、ハードカバーをつけたので大きな絵本の製本方法と手順は同じです。

小学校教員免許に必修の「初等教科教育法 図画工作」を受講する学生と、正倉院展に毎年でかけ、鑑賞授業をしています。子どもを引率してきた時に教師として配慮すべきことを考え、また子どもが鑑賞する時の手引きとなるように「正倉院ワークシート」を作成するなどしています。さらに卒業後、全国各地で教職につく時に日本の伝統文化のすばらしさを子どもに伝えるために『ミニ絵本・正倉院』として作れば効果的だと考えました。

見ただけでは感動が薄れてしまいますが、絵に描こうとすれば見方が鋭くなります。さらにミニ絵本にすると引越しても持ち運びが楽です。しかし、百人近い学生が受講するので、準備と指導が大変です。そこで効果的な指導方法をいろ



いろいろ工夫しました。

準備するもの

- ・ 薄いハつ切り画用紙一枚 (本紙)
- ・ 伸びない包帯 (幅五十ミリ・長さ九十ミリ)
- ・ 一ミリ厚のボール紙 (縦百ミリ・横六十五ミリ、芯の厚紙)
- ・ 色画用紙 (縦百三十五ミリ・横百九十一ミリ、表紙)
- ・ 糊と木工ボンド (あるいは速乾性接着剤)

作る手順

- 一、図のようにハつ切り画用紙を八等分します。
- 二、一枚は扉、一枚は奥付、六枚が中身になります。
- 三、先に毛筆で絵を描き、余白に毛筆あるいはボールペンで文を短く簡潔に書きます。小学生が読みやすいように漢字にふりがなをつけます。
- 四、墨が乾いてから三原色の絵具を混色して色を塗ります。

これ以後の製本の仕方は、「七・ハードカバーの絵本を作る」で述べたとおりです。大きくても小さくても製本の手順は同じです。